
どうやら僕はキモいらしい

愁羽 ザビエル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どつやら僕はキモいらしい

【Nコード】

N0179V

【作者名】

愁羽 ザビエル

【あらすじ】

僕の名前は「龍ヶ占たつがつから光ひかり」。

小学生からずっといじめられている。

そんな僕の日常を話してみたいと思う……。

(前書き)

この小説は全てフィクションです。
出てくる名前や団体は全て空想です。

はあ、なんだよ。こんなことかよ……………。

僕「龍ヶ占 光（たつがうら ひかり）」は体育館裏に呼び出しを受けた。

…靴箱に入っていた可愛い便箋で。

そしたら僕が通う霧ヶ裂峰高校の不良^{ヤンキー} 死語 の方々がい

た。
「おい、てめえが龍ヶ占か？」

いかついDQN君（以下Aと呼ぶ）が威圧的に話しかけてきた。

さて、どうするか…。「いいえ、違います。」と答えるか「はい、そうです。」と答えるか……………。

脳内で考えていると、ヤンキーどもの後ろから僕のクラスメイトでクラスのマドンナである美岬ちゃんが現れた。 ……ヤンキーと美岬ちゃんはグルか……………。そんな風に思っていると

「ねえ、光くん。憂さ晴らしに殴らせてくれない？」

美岬ちゃんはそう言った。

僕は小学1年生の時からずっといじめられている。僕の容姿がキモいかららしいが…。

僕の容姿は肩までかかるほどの黒髪、長髪。猫背。病的なほど蒼白い肌。長髪のせいで目元が見れない顔。170ある身長だが体重が45しかないのでガリガリな体。

ザツとこんな感じだ。だから皆からはサンドバッグや憂さ晴

らしの道具によく扱われる。

先生に相談しないのか？…プツ、無理無理。だってアイツら、自己保身しか考えられないからこのイジメを黙認してるし、しかも先生たちも憂さ晴らしに使うからさ。

おっと、話がそれたけどそんな感じだ。

…というか、スゲーな僕。だってよく「仏の顔は3度まで」
っていうだろう？

3度以上だぜ！？僕。ということは僕は釈迦以上か……。

美岬ちゃんとヤンキーどもの遊戯時間もおわり僕は教室に帰
ってきた。

すると、いつも通りの陰口や嫌がらせが始まった。…正直面
倒だ。

だけど、今日家に帰ると嬉しいものがまっている。それは、
後でのお楽しみだ。

僕はオタクである。いじめる奴等がオタクのレツテルをはっ
たので本当になってやったのだ。

そして1時限目が始まった。保体だ。最悪だ。

保体の担当は折村おじむらというがつりゴリラ顔の先生だ。

だからか、ゴリ村というアダ名で生徒たちから陰で呼ばれて
いる。

そんなゴリ村は僕をイジメている。…やれやれだ。

しかも、単位や成績を盾にしてだ。…最低だろ？

そんなこんなでもう昼食休みである。昼食はトイレの個室で
食べる。教室に居場所がないからだ。

そして5時限6時限となる。

5時限目は社会だ。担当は後谷うしろたにという先生だ。

この先生はハゲ、デブ、眼鏡、鼻息荒い、なんか臭い、汗だく、という嫌われ要素を全部含んでいるのに、僕がイジメの対象だからか、こいつまで調子に乗ってイジメてきやがる。…むかつくなあ。

6 時限目は英語である。担当は水速^{みはや}先生である。

この先生はキャリアウーマンみたいな感じがする。この先生は自分の授業で煩くしている生徒に厳しい罰を与えることで有名な先生である。そして、僕はみんなからお願ひ（命令）されて授業を煩くして 罰が与えられる、という悪循環が発生する。…よく不登校にならなかつたなあ。

そして放課後は僕は帰宅部なので家に帰る。僕以外の奴等は全員部活動入部者なので絡まれるという心配がない。…嬉しいなあ

家に帰ると例のアレが届いていた。……………やったぜ！！

さて、今から皆さんに質問したい。

僕は上記のような事が毎日、小学生から続いている。

……………いい加減「報復」や「復讐」、「リベンジ」の類いを行ってもいいだろう、と思わないかい？

という事で行っていいことと思う。

実行日は1週間後の金曜日だ。

ちよつど13日だからね

……………1週間後が楽しみだ。

T
o
b
e

c
o
n
t
i
n
u
e

?

(後書き)

はじめまして、BGM です。

初短編小説でした。

いかがでしたか？

コメントや評価お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0179v/>

どうやら僕はキモらしい

2011年10月9日09時08分発行